

(2) 米づくり

～米づくりの作業ごよみ～

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
ひ を り ま よ く う {たねまき、苗を育てる}	田 お こ し 代 か き 田 う え	水 か の ん り {じゃ草ざいをまく、消どくをする}			だ か り つ こ く と {かんそう、もみすり}	わ ら あ ら つ め {出 荷}	

村のほとんどの農家は、米をつくっています。

春になると、肥料をまぜた土に消どくしたたねもみをまき育苗機に入れ、きまった温度にして苗を育てます。その間に田に肥料をまき田おこしをしたり、水を入れて代かきをしたりします。種まきから一月ほどして葉が3、4まいぐらいになったとき田植えをします。

夏は、水がなくならないように田を見てまわったり、ごっ草をとったり、除草剤をまいたりします。また、病気や害虫からいねを守るために消どくを6回ぐらいします。

秋にいねがみのると、かりとり・だっこく・かんそう・もみすりを農協に出荷します。

米づくりは、春から秋にかけて数多くの仕事があるのでたいへんです。しかし、最近では田おこし・代かき・田植え・かりとりの仕事を大型の乗用機械を使ってするようになったので、仕事が早くできるようになりました。また、いねを病気から守るためヘリコプターで空から消どくもします。

このように、機械を使ってらくに仕事ができるようになりましたがいねの花が咲き、みのる時期に日照不足・低温・台風などにみまわれて不作になることもあるので、農家の人の心配は絶えません。

米づくりをしている人々は、自然の災害からいねを守る努力や、おいしい米をたくさん収かくするためにいろいろなくふうをしています。